

第20回環境情報科学センター賞 受賞者

学術論文奨励賞

受賞者：劉 銘 氏（東京大学大学院 農学生命科学研究科）



**対象業績：海外の日本庭園に対する違和感にみる日本庭園らしさ
の認識構造**

【受賞理由】

ある国や地域の文化に関心をもってあるいは好意を抱いて、別の国に展開することがある。その際に、庭園に限らず一般的に、発祥の国の人々にとっては漠然とした違和感をもつものとなることもしばしばある。当該研究は、日本人が海外の日本庭園に抱く違和感、すなわち「日本庭園らしさ」の欠如を詳細に体系的に分析することで、日本庭園らしさとは何かについての認識構造を明らかにすることを意図したものである。

方法論として、これまで漠然としてしか捉えられなかった「日本庭園らしさ」の認識について、主として一般の方の視点でその理由や違いを把握し、具体的にどこに違和感を持ったかをアンケート調査のデータ分析で明確にした点、その分析結果から「自然物－人工物」、「景観特徴－要素特徴」、「明瞭－不明瞭」の3軸として違和感の認識軸を設定した点、また、その違和感研究の対象を海外日本庭園として総体的にとりあげた点、などから、独創性・新規性が高いと評価できる。

ただし、信頼性・明確性に関連して、アンケート調査に用いた写真の選定および抽出方法について、複数の査読委員から確認が求められた。確認の結果、写真の出典は、海外の日本庭園の母集団としては最も信頼性が高いもので、選定プロセスも体系的な基準を設定して、客観的に行われた妥当なものであることが確認された。

将来性・発展性についても、専門家・一般人の認識の比較に加え、制約はあるものの海外の日本庭園の設計者・維持管理者の認識、外国人から見た日本庭園らしさの把握などへの展開も想定される。当該研究は、海外日本庭園の維持管理に関して造園関係者の間で問題とされている内容にも関連するため、今後の技術者研修、材料調達方法等に反映しうる点で実践的な有用性も高い。

以上の諸点を踏まえ、当該研究は学術論文奨励賞に十分値するものと評価できる。

<対象論文>

劉 銘・下村彰男・中村和彦・山本清龍(2019) 海外の日本庭園に対する違和感にみる日本庭園らしさの認識構造. 環境情報科学学術研究論文集, 33, 19-24.